



一度の実践ですべてがうまくいくことはありませんでした。実践と省察をくり返して、少しずつ目指す子どもの姿を見ることができました！

一人一人が主体性を発揮できる学校づくり

～「自分と向き合い、考える子」の個の学びを追う～

私たち研究員は、子どもたちの「課題を自分事として捉え、試行錯誤しながら、粘り強く考えようとする姿」を目指して研究してきました。5人の実践を通して見えてきたのは、「学びのサイクル」の中で子どもたちの具体的な姿を丁寧に見取り、その実態に応じた手立てを講じることが、子ども一人一人の充実感や自己効力感を高め、主体性の発揮に向かうのではないかとということです。下の図は、研究員の実践と「学びのサイクル」に必要な要素との関わりをまとめたものです。（詳しくは各研究員号をご覧ください。）

学びのサイクル

教科の学び方を子どもと共有することで、学びがより深まりそう。

子どもに委ねるところと、教師が出る
ところのバランスを考えていきたいな。

クラウド活用（ICT）
Which型発問（道徳）
3観点の問い返し（道徳）
複線型の単元デザイン（社会）
追究の視点（社会）

② 構想→構築→遂行・表現

どうしたらいいかな？ よし、これでやってみよう
これならできるかな？ 実際にやってみる

④ 次の発意

小さな成功体験を積み重ねて、
子どもは自信をつけるのではないかな。

問いづくり（国語）
学ぶ意義の共有（道徳）
見方・考え方を働かせた問い（社会）

① 発意

知りたいやってみたい
心が動く・感動・不思議
もやもや・疑問

③ 省察

こんなことできた！
なぜうまくいかないの？

ふりかえりシート（ICT）
問いの評価（国語）
OPPA（社会）
他者参照（ICT・社会）

新たな問いが、次の学びへ
向かう一歩になる。

「学びのサイクル」を支える土台（学びの集団づくり・見取り・支援）

自己をみつめるスキルトレーニング
（集団づくり）
ピア・サポート活動（集団づくり）

自己理解と他者理解の力が育つと、人生を豊かに
生きる力も育ち、学びの集団作りが促進するね。

【参考】「学びをつなぐ希望のバトンカリキュラム」

研究員も実践をする中で、少しずつ「学びのサイクル」を意識することができましたが、まだまだ不十分な部分があります。これからも研究から見えてきた子どもたちの姿をもとに、子どもたちの学びに伴走しながら、一人一人が主体性を発揮できる学校づくりを追究していきたいと思ひます。

3月10日（月）まで研究動画を公開しています。HPよりご視聴ください。動画のパスワードがわからない場合や、3月11日（火）以降にもご覧になりたい場合は、研修課（0770-56-1302）までご連絡ください。

研究にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

個人研究テーマ

学びに生かすふりかえり
～クラウドを活用した取り組みを通して～

子ども一人一人がフォームを使って毎時間送信したふりかえりを「①1時間ごとのふりかえりが見える座席シート」、「②自分のふりかえりが時系列に集まる個人用確認シート」に反映させ、自他のふりかえりを可視化できるようにし、それを生かした研究を行った。

①1時間ごとのふりかえりが見える座席シート

13	6	7	9	3	4
Lさん	Fさん	Gさん	Iさん	Cさん	Dさん
5	2	15	14	11	16
Eさん	Bさん	Nさん	Mさん	Kさん	Oさん
Uさん					
Pさん					
		23	27		
		Vさん	Yさん		

【他者参照】
○ふりかえりをフォームで送信すると、すぐに座席表に反映され、友達のふりかえりや疑問を自分に取り入れながら、学習を進めることができる。
○クラウドを利用することにより、いつでも自分の手元で参照できる。

②自分のふりかえりが時系列に集まる個人用確認シート

1 時間目	【自己評価】 ○自身の考えの変化やできるようになったことなどが見えることで、成長をより実感しやすくなる。 ○単元や学年が変わっても自分のふりかえりを見返すことができる。
2 時間目	
3 時間目	
4 時間目	
5 時間目	
6 時間目	

【子どもたちと授業者の声】

みんながどんなことを書いているのかが見れてとても嬉しかった。



自分自身の変化やできるようになったことなどに気づいた。



自分の考えと相手の考えを比べる事ができた。



ふりかえりをじっくり書いて学習していきたい。



○シートの導入により、子どもたちの思いやつまづきを一目で把握でき、教師が次の授業につなげやすくなった。
○人のいいところをどんどん取り入れようとする姿が増え、ふりかえりをする事の大切さを子どもたち自身がとらえられるようになってきている。

【フォーラムでの話し合いより】

- ふりかえりについて、悩みや実践していることを意見交換し、
- ・ふりかえりを行うことで、子どもたちは自分の成長を実感し、学びに対して意欲的になる。
 - ・他者のふりかえりを通じて気づきが得られ、授業への参加態度が向上する。
 - ・ふりかえりを深めることで、学びの変容を実感できるようになる。
- という気づきが得られた。
- ふりかえりを活用することは学習の定着に役立ち、子どもたちの意欲を高める効果があるが、実施方法やフィードバックの仕方に関しては、試行錯誤を続けていくことでよりよいものになっていくであろう。

【ふりかえりを表示するシートのテンプレート】お渡しできます。

- ・Google環境での利用を想定していますが、興味のある方は、研修課までお問い合わせください。



詳しくはHPよりA-5研究動画をご覧ください。



個人の研究テーマ

リフレクション型国語科授業

今年度、光村図書の教科書が改訂され、子どもが「問いをもつ」ことが重要視されています。その理由について、子どもが問いをもつことで課題を自分のこととして考えるためであると書かれていました。しかし、私の実践を振り返ると、初発の感想から子どもの疑問を取り上げ、授業を行ってきましたが、子どもが、自分事として学習に取り組んでいたとはいえないという反省があります。子どもが自分事として主体的に学習に取り組むためには、白坂洋一先生が提案されているリフレクション型国語科授業を取り入れることが有効であると考え、研究を進めました。（詳しくはHPより研究動画をご覧ください）

リフレクション型国語科授業とは

【子どもが問いをつくり、問いで読み合い、問いを評価する活動】

【問い作りの条件】

- ①本文からはずれない
- ②「～は～か。」という質問の形で

【問いでの読み合い】

- フレキシブルな学習形態での読み合い
- ☆実践では、誰とでも話し合える場を設定して進めました。

【問いの評価】（問い日記の項目）

- ①問いはよかったか、その理由
- ②問いで新しい発見はどんなことだったか、学べたこと
- ③次の問いへの思い

研究仮説

リフレクション型国語科授業を取り入れることで、子どもが自分事として「問い」をつくり、「問い」で読み合うなど、主体的に学習活動に取り組むことができるのではないかと

国語科での「自分事として主体的に学習に取り組む姿」とは

【一人一人が】

- 教材に対して問いを持てる
- 根拠を明確にした自分の考えを持てる



【読み合い】

- 互いの根拠をもとに話し合える。
- 友だちの意見と比較しながら、自分の解釈を持つ



単元計画【小5「たずねびと」】

教材の内容確認

問いをつくる

問いの決定
(3つの問い)1つ目の問いで
読み合う

問いの評価

2・3つ目の
問いで読み合う

問いの評価

考察・まとめ（一部を紹介します）

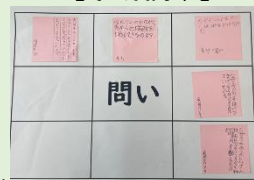
【問いづくり】

- 初めは、問いをつくるができなかった児童も、繰り返すことで、問いのつくり方を理解しつくることができた。
- △教師の意図と違った問いが、クラスで選ばれることがある。
- △子どもが自分の問いが選ばれなかった時、どう対応するか課題が残った。

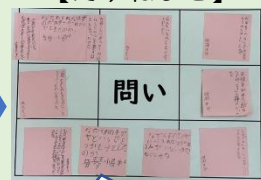
【問いでの読み合い】

- 子どもも教師も答えがわからない問いであるからこそ、子どもは根拠を積極的に見つけ話し合うことができた。
- 一人一人が根拠を明確にした考えを交流することで、自分なりの解釈を持つことができた。
- ≪ポイント≫ 全体での意見交流は、教師のファシリテートが重要になる。学び合いで、足りないと感じたところは教師が積極的に前に出ることが大切。

【事前授業】



【たずねびと】



問いが増えました

【フォーラムより】「主体的な学びのために、大変重要なテーマであると感じました」「問いづくりはもちろんだが、問いの評価が今までになかった視点だと思う」「徐々にでも、質のよい問いを生み出し考えていけるようにしていきたい」など、現場に即した貴重なご意見をいただき、私自身も多くを学ぶことができました。

研究テーマ

Which型発問 × 3観点の問い返しによる道徳科授業づくり
～全員参加でライブ感とストーリー性のある授業を目指して～

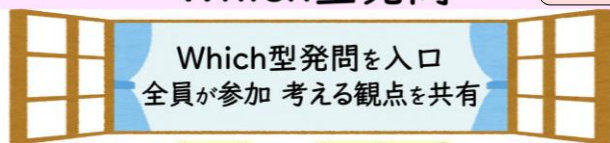
目指す子どもの姿

自分自身との関わりで考える姿
多面的・多角的に考える姿

Which型発問

授業づくり

3観点の問い返し



A or B A or B or C

「健二は先生に本当のことを、言った方がいい？ 言わない方がいい？」

「聡の気持ちに一番近いのは、ニコニコ・シクシク・ブンブンのどれ？」

スケール 1 2 3 4

「家畜のブタ・ペットのイヌ・野生のサル・動物園のパンダ
大事な命だと思ふ度数をそれぞれスケールに表そう。」

子どもたち



教師

わかりきったことを話している
建前で話している一面的にしか考えていない
ある面からの考えは深まった価値の意義に向かっていない
人間・他者理解が深まった人間理解の問い返し
「そうは言っても、本当にできる？」他者理解の問い返し
「じゃあ、逆の立場から考えたらどう？」価値理解の問い返し
「そもそも、どうして大切なんだろう？」

Which型発問により、自分の立ち位置を
自ら捉えて意思表示することができた。

3観点の問い返しにより、何度も立ち止まって
自己をみつめることができた。

私もこういう
経験があったな...大切なのはわかるけど、
実際にできるかなあ？

授業者より

問い返そうと準備していたことを
子どもたちが自ら発言するよう
になってきて驚きました。
複数の視点を踏まえた発言が
だんだん増えてきました。

Which型発問により、多様な考えが
たくさん引き出された。

3観点の問い返しにより、思考がつながり
ながら、様々な視点から考えを深める
ことができた。

そういう考えもあるのか！？
ということは...

逆の立場から
考えたらどうかかな？

どう思う？

自分自身との関わりで考える姿

多面的・多角的に考える姿

フォーラムでの話し合い



授業者

問い返ししながら子どもたちの発言をつないで
コーディネートするのが難しかったです。
3観点はつなぐためのヒントになりました。

子どもたちが自ら問い返し合うのがいいですね。

子どもたちお互いに問い返し合えるような授業を
私もしていきたいです。
次の道徳で、3観点を意識して問い返してみます。

子どもたちの飛躍した意見を無視したくないんですが、
それにどう対応して、ねらいに迫るといいますか？



授業者

どんな意見も大切にしたいですね。
飛躍した意見に、どんどん3観点の問い返しをして
いくことで、本質に迫れたこともありました。

Which型発問と3観点の問い返しで授業をやってみ
ました。いつもよりもたくさんの子が積極的に発言しま
した。Which型発問って考えやすいと実感しました。

研究から見えてきたこと

★Which型発問で全員参加の授業にすることで、「みんなと話し合いたい」という意欲が
高まり、子どもたちがどんどん自分の言葉で語り出す。

★3観点の問い返しによってライブ感とストーリー性のある授業となり、
子どもたち同士の考えや、子どもたちの思考と道徳的価値をつなげていくことができる。

★目指す子どもの姿の「自分自身との関わりで考える」と「多面的多角的に考える」が
両輪となって道徳的価値についての理解を深めることができる。

★深い教材研究によって子どもたちの考えが深まることで、新たな問いがうまれて主体的に考え出す。

詳しくはHPより
A-2研究動画を
ご覧ください。



「自己をみつめ、人とかわる力」を育む～ピア・サポートで心をつなぐ～

実態把握

Research

現状

- ・アセス
- ・SEL など



人とうまくかわからない
失敗を恐れて行動できない
前向きに物事に取り組めない

ピア・サポートプログラム
を学校行事に取り入れる

【めざす姿】 自己をみつめ、人とかわる力 前向きにかかわろうとする姿

9月 学校祭

①～⑩の質問それぞれについて、10段階のスケールで自己測定

「じぶんダイアログ」(自分を客観的にとらえる) 自己理解のスキルを練習

- | | |
|------------------|--------------------|
| ①嫌なことはNoと言える | ⑥一人の時間を楽しむことができる |
| ②自分の長所を言える | ⑦小さな挑戦ができる |
| ③自分が幸せだと感じる時間がある | ⑧無理やり相手に合わせようとしてない |
| ④自分で自分をほめることができる | ⑨自分と他の人を比べない |
| ⑤なりたいたい自分をもっている | ⑩失敗しても自分を責めない |

「アサーション」(自分も相手も大切に付き合い方) 他者理解のスキルを練習

- ・I(アイ)メッセージで、自分の気持ちを誠実に伝える
- ・相手を傷つけない言い方、自分ができる提案をする

- 目標を自分で設定(なりたい自分・集団)
- 問題点や課題を予想・共有
- 自分にできるピア・サポート活動を考える。

(日々の様子を観察)
(子どもの振り返り等を確認)

- うまくいったこと、いかなかったことを共有
- よりよい自分・集団になるために、自分にできること
- この行事で得たことを、どう生かすか

日常に活かす、次のピア・サポート活動へ

11月 合唱コンクール

<子どもの声> (⑦についての回答)

9月 (無回答)

11月

運動のときなど、自分が得意なことをする
時は、どんどん挑戦できるけど、苦手な事
(勉強など)は、なかなか挑戦できない。

今まで自分の気持ちを直接言ったりはしなかったけれど、
その中には言っていけないことや、言ったほうがいい
こともあるので、それを考えながら生活していきたい。

僕は学校祭の前の自分と学校祭後の自分を比べて、誰かのために動けるようになったと思います。自分の気持ちも相手の気持ちもよくなるので、これからも心がけたいと思います。僕は学校祭で仲間の大切さを改めて実感しました。これからは誰よりも仲間を大切にできる人になりたいと思います。(ワークシートふりかえりより)

名田庄小

かわりの質と量を確保する取り組み
・全校アドジャン ・自己表現ワークシート
・3つの窓 ・アダプテッドスポーツ

野木小

学活の年間指導計画にポジティブ教育を記載。
子どもの実態に合わせて、教材を最適化。

大飯中

校区内の3小学校と共に、系統立てた福井県版
ポジティブ教育プログラムを実践。



フォーラムのセッションは
R-cafe形式5校の実践
をお聞きし、交流を通し
て学びが深まりました。

三宅小

実践前に教員が福井県版ポジティブ教育プログラムを体験し、良さを実感、共有。

気比中

行事でピア・サポート活動の実践。
「24の強み」カードの活用

フォーラムより

目の前の子どもの実態に合わせて、「まずはやってみる!」ことが大切だという気づきがあった。また、先生方と「子どもを大切にしたい」という思いを共有することができた。教職員や学校はどうあるべきか、どうかわるべきか今後も考え続けていきたい。

研究やフォーラムを通して見えてきたこと

安心感

価値づけ

つながり

- ・子どもは「人とつながりたい・かわりしたい」「人とうまくかわれるようになりたい」という気持ちを持っている。
- ・先生からのコメントが「見てもらっている」安心感や心の支えとなるので、価値づけをすることが大切である。
- ・他者の良さに目がいき、自分を認められない子どもたちがいる。基本的自尊感情の醸成は今後の課題である。

研究テーマ：子どもが自ら追究する社会科の単元デザイン

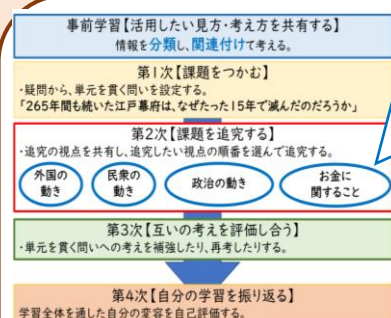
こんな手立てで **授業づくり** をしました！ 目指す子どもの姿： **自ら問いを追究する姿**

- ①指導計画(子どもが注目するであろう追究の視点を予想、OPPAを用いたワークシート作成、学習の進め方の整理)
- ②教師から提供する資料のデータベースを事前に準備
- ③単元の導入で追究の視点を子どもと共有
- ④子どもの学習の見取りを記録→実態に応じて単元計画の修正

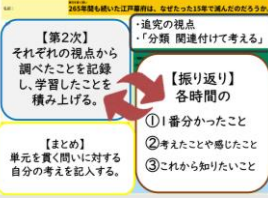
「すべての子どもが**学習のスタートラインに立つこと**」を意識して準備、実践しました！

実践した中で、こんな**子どもの姿**が見えました

単元を貫く問い：「265年間も続いた江戸幕府は、なぜたった15年で滅んだのだろうか」



子どもが
注目した、
複数の
追究の
視点から

複線型の単元に挑戦！**追究！****OPPA**

の手法を用いた
ワークシートを
使って学習を進める！

教科書で
タブレットで
データベースで
友達に聞いて

一人で
ペアで
グループで

幕府の滅亡には何らかの形で外国の動きがかかわっていると考えました。

調べたことを**関連付けて**考える姿

他の時代での政権交代と、江戸幕府の滅亡について、どんな共通点やちがいがあろうだろうか？考えてみたい。

新たな**問い**を見つける姿

フォーラムで語り合いました！

実践の様子から、社会科の学びを追究する子どもの姿は、本来複線であると捉えました。



みんなが学習のスタートラインに」という言葉は、どの校種でも必要になってくる考えだと思いました。



今回の実践を参考に、追究の視点を共有して、子どもにゆだねる複線型の授業を、他の単元でもやってみようと思います。

研究実践やフォーラムを通して**分かったことや感じたこと**

- ・社会的な見方・考え方を働かせた「単元を貫く問い」と、解決への見通しである「追究の視点」を共有することで、子どもが教科の学びに向かって自ら動き出すことにつながる。
- ・調べたことを関連付けて考えることで、問いに対して多様な考えが生まれる。
- ・新たな問いが、次の学習へ向かうきっかけとなる。
- ・社会科を学ぶ子どもの姿は、本来複線であるという捉え方。

複線型の単元デザインに取り組んだからこそ、教師が子ども一人一人にアクセスする機会が大幅に増え、個の学びを追うことができました。子ども一人一人の学びをどのように支えたか、ぜひHPから研究動画をご覧ください！

